

【大洲市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」として示された「令和の日本型学校教育」を踏まえ、本市では、「第2専門委員会（学力向上専門委員会）」が児童生徒の学力向上と教員の授業力向上を目指し、平成30年度に作成した「おおずの授業スタンダード」の改善を重ねてきた。各校では、このスタンダードを基に、授業の質を高めるための具体的な取組を実践している。

その中で ICT（情報通信技術）の可能性に注目し、GIGA スクール構想に基づく端末や教育用ソフトウェアを活用した授業を研究し、デジタルとアナログの効果的な融合を目指している。

具体的には、本市児童生徒の学力データを詳細に分析し、「おおずの授業スタンダード」を基盤として、子どもたちが主体的に学び、他者と積極的に協働して情報を収集・活用できる授業の実践を目指している。そのためにも、より最適な ICT 環境の構築を目指し、教育の質を一層向上させていくことが大切である。

2. GIGA 第1期の総括

令和2年度に指導者用も含めた1人1台端末と校内無線LAN環境を整備した。同時に授業支援ソフトやドリル教材の導入、ICT支援員の配置、教室等の大型モニター更新、学習者用デジタル教科書活用促進事業への参加などを行ってきた。

大洲市学校教育情報化推進計画を策定し、「教師も子どもも1人1台端末の環境に慣れる」ことから「1人1台学習者用端末がスタンダード」「学びのICT活用が当たり前」への段階へと計画的に進めてきた。

一斉学習での教師の端末活用から、児童生徒の個別学習や協働学習での活用につなげ、調べ学習や意見発表・意見交流などを行ってきた。日常的に端末を利用する機会を増やすとともに、AI ドリル教材なども利用し個別最適な学びや協働的な学びの推進に努めてきた。

しかし、インターネット接続や端末の不具合といったハード面での課題や端末活用に関する学校差、個人差といったソフト面での課題がみられる。第2期においては、これらの課題解決のために、環境整備や各種研修等をとおした教職員の意識改革を行っていききたい。

3. 1人1台端末の利活用方策

1人1台端末環境を維持し、ネットワークアセスメントや整備計画においてネットワーク環境の改善を進めていく。また、これまで課題であった、windows 更新時の子どもや学校の負担を、GoogleChromeOS を搭載した Chromebook に変更することで、良好な操作環境を確保する。

OSが切り替わる初年度においては、よりきめ細かな研修を行い、全ての教職員、児童生徒がスムーズに端末を利活用できるよう計画する。

また、端末や関連ソフトウェア、サービスの年次更新処理を教育委員会及びICT支援員による実施を継続することで、学校側の負担を低減し、教職員の端末利活用能力の向上や互いの情報交換に注力できる体制を確保し、1人1台端末の積極的な活用を推進する。

個別最適・協働的な学びの充実については、授業支援ソフトウェアの活用をさらに進めることで、共同編集機能などのより実践的な活用の推進を図る。

端末の平常時、長期休業中の持ち帰りの実施率の向上を目指す。

加えて、活用上の課題や情報共有など現場の教職員の要望が反映できるよう大洲市学校情報教育推進協議会との連携を継続していく。

また、不登校など特別な支援が必要な子どもたちについては、実態等を把握したうえで、愛媛県が進めている校内サポートルームやメタサポキャンパスなどの活動を取り入れたり、学校でのウェブ会議機能によるリモートでの授業の参加を取り入れたりするなど、ICT 環境を利用した学びの機会を保障に取り組む。